

平成23年度における各団体の取組等(「イチオシ企画」)一覧

	団体名	取組名称	実施時期	取組内容	他団体と連携の可能性
1	東青地域県民局 地域連携部	東青地域温泉地賑わい 創出推進事業	H23.4～	東北新幹線全線開業によりアクセス環境が変化する東青地域の温泉地について、青森市、関係団体等で構成する会議を組織し、課題解決に向けた活性化プロジェクトを調査・検討・立案する。	会議の予定メンバーには、改めて御説明させていただきますので御協力をお願いしたい。
2		東北新幹線全線開業賑わい創出事業	H23.4～	東青地域の活性化に向け、新青森駅周辺について、青森市、関係団体等で構成する会議を組織し、青森県の新たな玄関口にふさわしい賑わい創出につながるプロジェクトを調査・検討・立案する。	会議の予定メンバーには、改めて御説明させていただきますので御協力をお願いしたい。
3	東青地域県民局 地域農林水産部	しっとり もっちり 東青 の米粉スイーツ創出事業	H23.4～	地場産米粉及び地域特産物を活用したスイーツ開発を高校、菓子店等に委託し、新たな土産品づくりや米粉の利用拡大等に取り組む。	青森スイーツノベンバー(仮称)を運営する組織と連携し、相互の活動周知や米粉スイーツPRをお願いしたい。
4	青森商工会議所	小規模野菜工場併設型 ショップ調査研究事業	H23.6～ H24.2	安全で安心をキーワードに、LED照明栽培、太陽電池栽培、水耕栽培の技術を利用した小規模で製造・販売ができるショップに係るビジネスプランの調査研究。コンセプトに「地産地消」を掲げる。	
5	(株)JTB東北 (杜の賑い青森 実行委員会)	第117回杜の賑い青森	H23.6.4	6月4日(土)、青森市文化会館で、東北新幹線全線開業を記念し、第117回「杜の賑い」が開催される。当日は、午前と午後の2回、津軽三味線やえんぶり等の郷土芸能、YOSA KOIソーランなどが行われる。	青森商工会議所、(社)青森観光コンベンション協会、青森市、青森県と連携して開催する。
6	(株)大坂組 (合同会社 エピコ)	ナマコ・アマモ育成礁 (竜宮礁)	H23.4～	アマモを保護・育成するとともに、水産生物の棲みかになる育成礁を設置する。アマモは、光合成により酸素を供給し、葉や地下茎を通じて窒素やリンを吸収し、水質浄化等の機能がある。	エピコは、大坂組、細川産業、志田建設の3社で構成、漁業関係者の協力を得て実施する。海洋資源や環境保護等に関係する団体と連携することで、事業の可能性が広がることが期待される。
7	青森市中心商店街 女性部	目指せ！鍋横綱 コンテスト	H24.2	今年第1回を開催して大盛況だったこのコンテスト、市民・観光客、応募者、マスコミともに高評価を得た。平成23年度に第2回を開催したいが、予算計上していない実態にある。	開催にはある程度予算が必要なため、連携して開催してくれる団体を募っている。
8	青森市	津軽海峡・むつ湾 広域連携推進事業	H23.4～	道南地域及び県内他都市(青函交流圏)との交流連携の強化を図るため、「(仮称)津軽海峡・むつ湾共和国構想」を推進する予定。	津軽海峡・陸奥湾に面する、道南地域、下北・津軽半島の市町村との連携を想定。

	団体名	取組名称	実施時期	取組内容	他団体と連携の可能性
9	平内町 (土屋漁業研究会)	漁船で行GO!	H23.5~8 (指定日)	ほたて広場近くの会場で、実際に漁船に乗り、漁法に触れることでホタテ養殖を学び、試食もできる体験ツアー。陸奥湾を取り囲む景観を海から楽しみ、運が良ければイルカや海鳥と記念写真が撮れる。	周辺の観光ルート、宿泊施設と連携することによって、集客力アップと町名産のホタテのPR効果につながることを期待できる。
10	今別町	今別町観光開発事業 (仮称)	H23.4~ H24.3	今別町商工会と連携し、連絡会議の開催、観光ルートの開発・検証、観光商品の開発等に取り組む。	今別町内の商工会員である生産者団体と連携することからスタートし、将来的に広域的な取組も検討していきたい。
11	蓬田村	乳幼児医療費の無料化 等		<ol style="list-style-type: none"> 1 乳幼児医療費の無料化 2 保育料の半額化 3 公営住宅を50戸新築、23年度建設に着手 4 道の駅構想を計画 	
12	外ヶ浜町	まち歩きマップ作成事業	H23.4~ H24.3	昨年12月からリゾート列車が蟹田駅まで運行、この春からはいよいよ本格的な観光シーズンを迎える。蟹田駅から先は、JRバス「冬の奥津軽号」が観光客を受け入れてきたが、個人客向けの観光ルートをコース化する事業として、外ヶ浜町商工会と連携して、商店情報と地域資源(太宰治『津軽』ゆかりの地等)をミックスさせた「まち歩きマップ」を制作し、東北新幹線開業効果を活かすこととしている。	「広域的」なまち歩きマップの作成も考えられる。